

編集後記

約 10 年ぶりとなる研究用原子炉 JRR-3(3 号炉)の再稼働に伴い共同利用が再開され、その成果が最初の中島先生の記事になっています。表紙の絵に 3 号炉と思いましたが、原子炉の写真は掲載できませんでした。磁気スキルミオンの研究経緯も含めたわかりやすい解説となっています。続く福島先生の記事では、マテリアル DX でどうやって「ビールとおむつ」(←こちらが気になる方は是非ご一読を)を見いだすか、タツプリな容量で解説されています。世界のマテリアル DX の動向、そして日本の状況も詳しく解説されています。近藤研の黒田助教(現広島大)の記事では、1980 年代に盛んに研究された CeSb が対象になっています。東北大の糟谷先生(RKKY 相互作用の K のお一人という説明が今や必要でしょうか?)が、当時にポーラロン、p-f mixing と語られていたこの系の物理が、最先端の測定によって解き明かされていく様は感慨深いものです。学生の 2 件の受賞の記事がありますが、2 件とも研究室間の協力に基づいた研究になっております。

先日、物性科学分野にとって有用な研究振興政策と研究評価の方法について、エビデンスに基づく議論の機会となることを目指し「エビデンスに基づく研究評価分析についての検討会」が物性委員会主催で開催されました。コミュニティが企画する研究評価に関する検討会の開催は、おそらく物性分野が初めてだと思われます。この中で英国の例(Research Excellence Framework)として、研究成果、研究がもたらした経済・社会・文化・公共政策等へのインパクト、研究環境の 3 つ評価項目があり、インパクトの項目については世界的にも注目を集めていることが紹介されました。そこでは、機関の中でも分野毎に作り、また、7 年間の間に生まれたインパクトと 20 年前までの研究成果が対象となります。本来、評価までには数年かかる物性分野において、数年分の成果しか対象とならない日本の評価の現状との差を感じるところです。

鈴木博之

物性研だよりの購読について

物性研だより発行のメール連絡を希望される方は共同利用係まで連絡願います。

また、物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

記

1. 送付先住所変更(勤務先⇔自宅等)
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正(誤字脱字等)
4. 配信停止
5. 送付冊数変更(機関送付分)
6. メール配信への変更

変更連絡先：東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール：issp-kyodo@issp.u-tokyo.ac.jp